被害の度合いの評価

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 毒性物質種 | MMH | MON3 | アンモニア  （ヒートパイプ） |
| 被害の度合いの評価結果 | I | I | III以下 |
| 備考 |  |  | SFAの作業場所にて全量漏洩しても〇〇ppmにしかならず、人体に影響無し。 |

（注釈：ヒドラジン、MMH、MON3、NTOについては基本的に被害の度合いはI。ヒートパイプに使用されるアンモニアについては少量で漏洩しても人体に対して問題無い場合は被害の度合いIII以下となる。それ以外は個別に人体の影響を評価した上で被害の度合いを決める。）



3つのシール

3つのシール

3つのシール

3つのシール

図　フライト品の配管系統図　（1-1-1）

（注釈：バルブ及びその内部のシール数、ガスが充填されている箇所を明確にする。それぞれ外部への漏洩に対して必要なインヒビット数を満足していることを明確にする。）

図　注排弁の断面図（1-1-1）

（注釈：流路に対するシールの箇所を明確にする。）

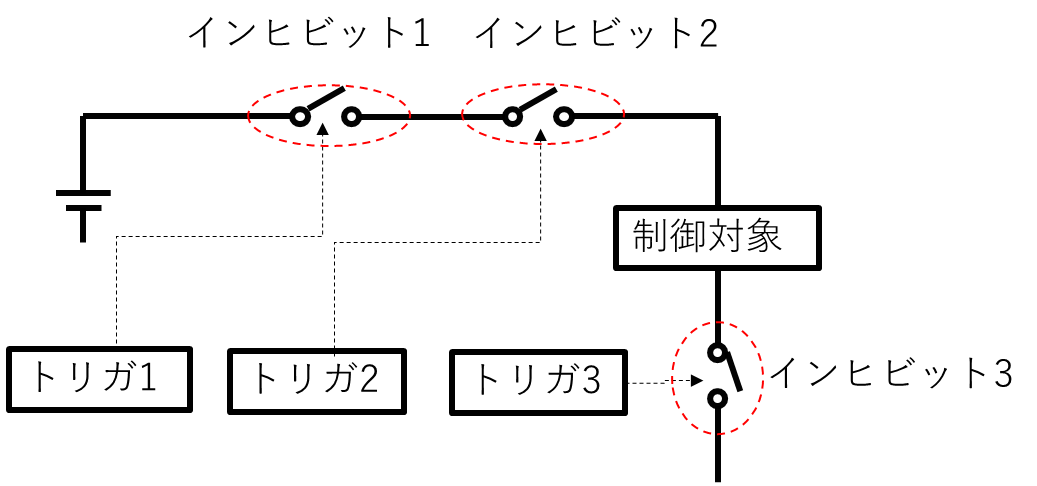


図　弁制御ラインのスケマチック(2-1-1)

（注釈：2故障許容が成立していることを示す。必要最小限のインヒビット（ここではインヒビット1、インヒビット2、インヒビット3）及びその制御ライン（ここではトリガ1、トリガ2、トリガ3）を記載する。要求されている以上のインヒビットを記載しない。）

【弁制御ラインの2故障許容成立性の解説】

インヒビット1、2、3はそれぞれ独立したスイッチであり、インヒビット1~3が全てONになることにより推薬弁が開く。

インヒビット1、2、3はそれぞれトリガ1、2、3からの信号によりONになる。トリガ1、2、3が共通して発動する故障モードは無い。

表　衛星吊り点の強度解析結果サマリ（6-1-1）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 対象部位 | 安全係数 | MS |
| アダプタ | 2 | 1.1 |
| 吊り点 | 2 | 1.1 |

表　吊り具の強度解析結果サマリ（6-2-1）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 対象器具 | 安全係数 | MS |
| 吊具 | 6 | 1.1 |